



# 心霊術の正体

死者の靈魂と交わることができるか？

大争闘シリーズ No. 5



大争闘シリーズ No. 5

# 心霊術の正体

死者の霊魂と交わることができるか？

(キリストとサタンの大争闘 34 章)

# 目次

## Contents

|                        |    |
|------------------------|----|
| 死者の霊とは何か               | 1  |
| 心霊術の正体                 | 4  |
| 欺瞞の張本人                 | 7  |
| 人間を破滅させるもの             | 11 |
| 悪霊の本性                  | 15 |
| 心霊術の変貌 <sup>へんぼう</sup> | 17 |
| 悪霊との戦い                 | 20 |
| 全世界に臨む欺瞞               | 22 |
| 現代人の盲目                 | 25 |

## はじめに

死後に関するキリスト教神学の誤りは、はなはだしい。異教からローマ法王教に入ってきて、プロテスタント諸教会に引き継がれた誤謬である。この霊魂不滅の教えが死者との交通ができるという恐ろしい心霊術に門戸を開いた。昔から心霊術はどここの国、民族にもあったが、近代心霊術は19世紀の半ばに始まった。

そしていろいろな形態を持つようになった。

「それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわざいである。悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」(ヨハネ 12:12)

この冊子は、心霊現象が死者の霊ではなく、悪魔、悪天使の働きであることを聖書から暴露する。サタンはどんな形で現代人を惑わし大衆を滅びに陥れるかを描写する。

## 死者の霊とは何か

聖書に表示されている聖天使たちの奉仕は、キリストに従うすべての者にとって、極めて大きな慰めとなる貴重な真理である。しかし、この点に関して聖書の教える真理は、一般神学上の誤りによって曖昧あいまいにされ、曲解されてきた。霊魂不滅の教理は、最初異教の哲学から借りてきたものであって、大背教の暗黒の間にキリスト教の中に混入されたものである。これは、聖書において「死者は何事をも知らない」と明確に言われている真理に取って代わり、その結果多くの人々は、「仕える霊であって、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされた」のは、死者の霊であると、誤って信じるようになった。しかし聖書には、天使の存在について明確に記されている。天使は、人間界に死が入る前から存在し、人間の歴史と関係があったのである。死んでも人には意識があるという教え、特に、死者の霊は生きている者に仕える

ために戻って来ると  
いう信仰は、近代心  
霊術（降神術）への  
道を備えた。もし死  
者が、神と聖天使た  
ちとの前に出ること



を許され、また彼らが、地上においては所有していなかったところの優れた知識を持つ特権にあずかっているとすれば、現に生きている者を教えるために、地上に帰ってこないはずがないのではないか？一般の神学者たちが教えるように、万一死者の霊がその友人たちの周囲をさまよっているのであれば、彼らはどうしてその友人たちの前に現れ、罪惡を戒め、あるいはまた、悲しみに沈んだ者を慰めないのでしょうか？

死んでも人には意識があると信じる者は、栄化した霊によって伝えられる天来の光として彼らに与えられるものを、どうして拒むことがで

きようか。ここに、いかにも神聖なもののように思わせるチャンネル(経路)があって、サタンはこのチャンネルを通してその目的を達成するために働くのである。サタンの命令を行う墮落天使たちが、霊界から遣わされた使者としてその姿を現す。生きている者に死者との交わりを行わせると公言しながら、サタンは、生きている者の心にその魅惑的な感化力を働かすのである。

サタンは人々の前に、彼らの死んだ友人たちの姿を現す力を持っている。その偽物は完全である。見なれた表情や言葉や声の調子などが、信じられないほどの正確さをもって再現される。多くの者は、自分たちの愛する者が天の無上の幸福を味わっていると信じて慰められる。そして危険を少しも感じないで、「惑わす霊と悪霊の教え」に耳を傾けるのである。

## 心霊術の正体

死者が実際に自分たちと交わるために戻ってくると人々が信じるようになると、サタンは、悔い改めないで墓に下った者たちを出現させる。彼らは、自分たちは天で日々幸福に過ごし、その上、高い地位さえ占めていると公言する。このようにして、正しい者と悪い者との間に違いはないという誤謬が広く伝えられる。霊界から来たと称する者たちは、時には注意や警告を語って、それがその通りになることがある。こうして人々の信頼を得ると、今度は聖書の信仰を直接侵害するような教理を持ち出す。一見地上に残った友人たちの幸福に深い関心があるかのように見せかけ、実際には危険極まる誤謬をそれとなくほのめかす。彼らが幾つかの真理を語り、また時には未来の出来事を予言することができるという事実から、彼らの言葉には信ぴょう性があるように見える。そしてこの種の偽りの教えは、多くの人々によって受け入れら

れ、それが聖書の最も神聖な真理であるかのように無条件で承認される。神の律法は退けられ、恵みのみ霊は軽蔑され、契約の血潮は清くないものと見なされる。これらの霊は、キリストの神性を否定し、創造主を自分たちと同じ水準に引き下げることさえやってしまう。このような新しい変装の下に、大欺瞞者サタンは、天において始まり、地上において六千年近く続けている、神に対する彼の戦いを、依然として続けているのである。

多くの者は、この種の心霊現象を、全く霊媒の欺きやからくりであると説明しようと努める。しかし、ごまかしを本物と信じさせた場合がたびたびあったことは事実だが、ある場合には、超自然的な驚くべき不思議が行われることもあったのである。近代心霊術はコツコツ叩く不思議な音（ラッピング）から始まったのであるが、その音は人間のごまかしや欺きによるのではなく、悪天使たちの直接の働きであった。

彼らはこのようにして、魂を滅ぼすのに最も効果的な惑わしの一つを持ち込んだのである。そして、心霊術は単なる人間のごまかしや欺きであると信じている者は、彼らにとって否定できないところの超自然的現象に直面した時に、たちまち欺かれ、それをあたかも神の偉大な力によるものであると信じてしまうのである。

こうした人たちは、サタンとその部下たちによって行われる不思議なことについての、聖書の証を見落としている。昔、パロの魔術師たちが、神のあらわされた奇跡に対抗して不思議を行ったのは、サタンの力によるものであった。キリストの再臨前にも、これと同じような、サタンの力による不思議



議が行われるであろうとパウロも語っている。主の再臨に先だって「あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わし」を行う「サタンの働き」がある（Ⅱテサロニケ 2:9,10）。同じく使徒ヨハネも、終末時代に現れる奇跡を行う権力について「また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし」と言っている（黙示録 13:13,14）。ここに預言されているのは単なる詐欺、惑わしの類ではない。この場合、サタンの代理を務める者たちが人の目をごまかして行うことによってではなく、実際に彼らが行う力を持っているその奇跡によって、人々は欺かれるのである。

## 欺瞞の張本人

暗黒の王であるサタンは、長年の経験と熟達

した能力を欺瞞の働きに傾けているので、人々の地位、階級、環境に応じて、巧みにその魔手を伸ばすことができる。彼は、教養のある上流の人たちに対しては、心霊術の極めて洗練された知的な面を現し、多数の者を自らの手中に陥れる。心霊術が与える知恵は、使徒ヤコブが「上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なもの」と述べたものである（ヤコブ 3:15）。しかし大欺瞞者サタンは、隠すことが最もよく彼の目的にかなうときには、このことを隠すのが彼の手である。荒野の試みの時、キリストの前に天使の輝きを装って現れることができたサタンは、人々の前に光の天使として最も魅惑的な様子をもって来る。彼は、高尚なテーマを示して人々の理性に訴え、あるいは恍惚とさせるような光景を展開して空想力を楽しませ、また愛と慈悲とを雄弁に描いて愛情を呼び起こす。彼は、人々の空想を高く飛躍させ、人々が自分たちの知恵に大きな誇りを持つように導き、そしてついには、心の中で

神を軽蔑するようにさせる。救い主キリストを高い山に導き、地上の国々の栄華を示すことができたこの力あるサタンは、神の力によって守られていないすべての者の感覚を誤らせるような方法で、人々に誘惑を仕掛けるのである。

昔サタンが、エデンにおいてエバを欺いたように、へつらったり、禁じられた知識への欲望をかき立てたり、



自己を高める野心を起こさせたりして、今も人々を欺くのである。この種の悪を心に抱いたために、アダムは墮落した。さらにサタンは、これらの悪を通して、人類を滅亡させようとしているのである。「あなたがた（は）……神のように善悪を知る者となる」と彼は言った（創世記 3:5）。心霊術は、「人間は進歩する生物である。人間はその誕生の時から、永遠に向かい

神に向かって進歩するように運命づけられている」と教える。また、「心を判断する者は、各人の心それ自身であって、他の何者でもない。」「その判断は正しい。なぜなら、それは自己の判断だからである。……王座は、あなたの内にある」とも言う。ある心霊術の教師は、彼のうちに「靈的意識」が起きたときに、「わが同胞よ、すべての者は、墮落しない半神半人であった」と言った。また他の者は、「正しく完全な人間は、誰でもキリストである」と言っている。

こうしてサタンは、崇敬の真の対象である無限の神の義と完全、また、人類の到達すべき真の標準である神の律法の完全な義の代わりに、罪深く誤りやすい人間自身を、崇敬の唯一の対象とし、判断の唯一の基準、品性の標準とした。これは、進歩ではなく、むしろ退歩である。

知的方面においても、靈的方面においても、ながめることによって変化するということは、動かすことのできない法則である。心は、い

つも考えていることに次第に順応するものである。それは、日ごろ自分が愛好し尊敬するものに同化していくのである。人は自分が立てた純潔、善良、または真理の標準よりも高きに達することは決してない。もし、自分が最高の標準であれば、それ以上の高尚なものに到達することは決してできない。いや、かえって常に下へ下へと落ちていくのである。ただ神の恵みだけが、人類を高める力を持っている。人間は、そのままにしておけば、必然的に墮落していくのである。

## 人間を破滅させるもの

心霊術は、放縦で快樂を愛好する、肉欲的な人々には、教養があつて知的な人々に対するほど巧妙に偽装しなくてもよい。彼らは、その低劣な形態の中に、彼らの好みに合ったものを見つける。サタンは、日ごろから人間の性質の

あらゆる弱さの徴候をよく研究しているので、それぞれが陥りやすい罪を見つけ、彼らの邪悪な傾向を満足させる機会に欠けることがないように注意を払っている。サタンは人々を、それ自身は正当であるものに過度に陥らせ、不節制によって、彼らの肉体的、精神的、道徳的能力を低下させる。彼は、人々に情欲を欲しいままにさせ、こうして人間の性質全体を獣的なものにして、これまでに幾千の人々を破滅させ、また今も破滅に陥れつつあるのである。しかも彼は、彼の働きを完成させるために、霊たちを通して、「真の知識は、人類をあらゆる律法から超越させる」、「存在するものは、すべて正しい」、「神は、罪に定めることはない」、そして、「犯した罪はすべて無罪である」、と言うのである。このようにして、人々の欲望こそが最高の律法であって、自由はすなわち放縦であり、人間はただ自分自身に対する責任しかないと人々が考えるようになれば、至る所に腐敗と墮落が満ちても不思議ではないのである。多くの人々は、自分の

心のおもむくままに自由に行動することを許す教えを、熱心に受け入れるのである。その結果、彼らは肉の欲を欲しいままにし、心と魂の能力は、動物的な傾向に従属するようになる。こうしてサタンは、キリストを信じるという幾千の人々を彼の網の中に捕えて勝ち誇るのである。

しかし、誰も心霊術の偽りの主張に欺かれる必要はない。神は、わなを見つけるのに十分な光を、世の人々に与えておられる。すでに示したように、心霊術の根底にある理論は、聖書の明白な教えに反するものである。聖書は、死者は何事も知らない、その思いは滅び、日の下に行われるどんなことにも関わりがない、彼らは、地上にいる愛する者たちの喜びも悲しみも知らないのである、とはっきり語っているのである。

さらに神は、いわゆる死者の霊との交通と称するものを、堅く禁じておられる。旧約時代においても、今日の心霊術者と同様に、死者との交通ができるという者がいた。しかし、「口寄

「口の霊」は他の世界から来たもので「悪鬼の霊」と聖書は断言している（民数記 25:1-3、詩篇 106:28、I コリ



ント 10:20、黙示録 16:14 を比較せよ)。口の霊を呼ぶことは、神が憎まれるものと明言され、死の刑罰をもって厳しく禁じられていた（レビ記 19:31;20:27 参照）。口の霊という名称そのものは、今日では軽蔑されている。人が悪霊と交通できるという主張は、暗黒時代の作り話と考えられている。しかし今日、心霊術の驚くべき欺瞞は、幾千、いや幾百万という信者を集め、科学者社会、一般宗教界、法律家の団体、王室にまで侵入しつつある。この巨大な欺瞞は旧約時代に神によって禁じられ、罰せられた「口の霊」が新しい衣装を着けて復活したものに他ならないのである。

## 悪霊の本性

もし心霊術の正体について他に何も証拠がなくても、その霊なるものが義と罪とを区別せず、キリストの高貴にして純潔な使徒たちと、墮落したサタンのしもべたちとを区別しないということだけでキリスト者たちにとっては、十分であろう。どんな卑劣な人間であっても、天にいて非常に崇められているということを示して、サタンは世の人々に向かって次のように言うのである。「あなたがどんなに悪くても、かまわない。神と聖書を信じようが信じまいがそんなことは問題ではない。好きなように暮らせばよい。天はあなた方の永遠の住みかなのだ。」心霊術者たちは、結局次のように宣言しているのである。「『すべて悪を行う者は主の目に良く見え、かつ彼に喜ばれる』と言い、また『さばきを行う神はどこにあるか』と言うからである」(マラキ 2:17)。神のみ言葉には「わざわざいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼ん

で悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし」と言われている（イザヤ 5:20）。使徒たちの姿を装った偽りの霊は、使徒たちが生存当時、聖霊の指図のままに書いたものと全く反対のことを教える。彼らは、聖書が神から出たものである事実を否定し、こうしてキリスト者にとって希望の根底となるものを取り壊し、天に至る道を照らす光をかき消す。サタンは、聖書は単なる神話に過ぎず、少なくとも人類の初期の時代にはふさわしい書であったが、今日では軽く見過ごすか、すたれたものとして捨ててしまっ  
てよい本だと、世の人々に信じさせている。そして彼は神のみ言葉の代わりに、心霊現象を持ち出す。ここに、心霊術は完全にサタンの支配下にある経路がある。これを通して彼は、自分の思うままに他の人々に信じさせることができるのである。サタンとその従



者たちをさばく聖書を、彼は自らの思いのままに陰に隠す。彼は世の救い主を、ただの人間にしてしまう。ちょうどイエスの墓の番をしていたローマの番兵たちが、祭司や長老たちによって買収され、イエスの復活を否認して、偽りの報告を広めたように、この種の心霊術者たちは、キリストの生涯には何の奇跡も行われなかったと言う。こうしてイエスを後方に押しつけて、自分たちの奇跡に注意を引き、それがイエスの業よりもはるかに優れているものであると宣言するのである。

## 心霊術の<sup>へんぼう</sup>変貌

今日、心霊術はその様式を変え、今までのいかがわしい点を隠して、キリスト教の仮面を装いつつあることは事実である。しかしその主張は、長年にわたって、講壇や出版物を通して公表され、その中に真の性質が表されてきた。こ

これらの教えは、否定することも隠すこともできない。

心霊術は、今日において、従来の様式よりもはるかに巧妙になっているため、かえって人々の心を捕えやすく、それだけに危険性が増したといえる。それは、これまでキリストと聖書を否認してきたが、今はこの両者を受け入れると公言している。彼らによって、聖書は、生まれ変わっていない心を喜ばすように解釈され、他方、厳粛で重要な聖書の真理が無視されている。愛は神の第一のご性質としてくり返し説明されてはいるが、善と悪をほとんど区別しない弱々しい感傷主義に陥っている。神の義、罪に対する神の譴責、神聖な律法の諸要求などはすべて無視されている。人々は十誡は死文であると考えるように教えられる。人の耳を喜ばす魅惑的な作り話が



彼らの感情を捕らえ、人々に信仰の基礎である聖書を否認させている。こうして、以前と変わりなくキリストは拒否されているのであるが、サタンは人々を盲目にしてその惑わしが見分けられないようにしているのである。

心霊術の欺瞞的な力と、その影響を受けることの危険性について、正しく認識している者は極めてまれである。多くの者は、単に好奇心を満足させるために心霊術に手をだす。彼らはそれを本当に信じているのではない。かえって霊の支配に服することを思うと恐怖で満たされる。しかし彼らは、禁じられた地に危険を顧みないで入っていく。そして、強大な破壊者が、彼らの意志に反して彼らの上にその力を働かすのである。彼らが一度でもその心をサタンの命令に従わせる気になると、サタンは彼らをとりにする。サタンの魅惑的な魔力を、自分の力で断ち切ることは不可能である。信仰の熱心な祈りに答えて与えられる神の力だけが、これら

の捕えられた魂を解放できるのである。

## 悪霊との戦い

罪深い性質をほしいままにしたり、知っている罪を故意に抱いている者はみな、サタンの誘惑を招く。彼らは自分を神から、また天使たちの保護から引き離している。悪しき者が彼らを陥れようとするとき、彼らを守るものがないために、容易にその餌食となってしまうのである。このようにしてサタンの力に身を委ねる者は、自分たちの行き着く先がどこにあるかを悟らないのである。彼らを征服してしまうと、誘惑者サタンは、他の者を滅びにおびきよせる手先として彼らを用いる。

預言者イザヤはこう言っている。「人々があなたにむかって『さえずるように、ささやくように語る巫子および魔術者に求めよ』という時、民は自分たちの神に求むべきではな

いか。生ける者のために死んだ者に求めるであろうか。ただおきてとあかしとに求めよ。もし彼らがこの言葉によって語っていなければ、それは彼らのうちに光がないからである」(イザヤ 8:19,20 欽定訳)。もし人々が、人間の性質や死人の状態について聖書の中に明らかに述べられている真理を喜んで受け入れていたら、心霊術の主張や現象の中に、力とするしと偽りの不思議とを伴ったサタンの働きを認めるであろう。しかし多くの人々は、肉の思いに都合のよい自由を放棄したり、愛好している罪を捨てたりするよりはむしろ、光に目を閉じ、警告も顧みないで突き進んでいく。するとサタンは、彼らの回りにわなを仕掛け、彼らを捕らえてしまうのである。彼らが「自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった」から、「神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送」られるのである(Ⅱテサロニケ 2:10,11)。

心霊術の教えに反対する者は、単に人間だけ

ではなくサタンと悪天使たちを攻撃しているの  
である。彼らは、もろもろの支配と、権威と、  
天上にいる悪の霊との戦いに入ったのである。  
サタンは、天の使いの力によって撃退されない  
限り、一步も退却しようとはしない。神の民は、  
救い主がなさったように、「……と書いてある」  
という言葉をもってサタンに対抗することがで  
きる。サタンは今もキリストの時と同様に聖句  
を引用し、これを自分に都合よく曲解して、自  
分の欺瞞を支持するために用いるのである。こ  
のように、この危険な時代に立とうとする者は、  
聖書の証を自分で理解しなければならない。

## 全世界に臨む欺瞞

多くの者は、愛する肉親や友人の姿をして最  
も危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面する  
であろう。これらの霊は、人間の最も感じやす  
い同情に訴え、自らの主張を支持するために奇

跡を行う。しかし我々は、死者は何事も知らない、このように姿を現すものは悪魔の霊である、との聖書の真理によって彼らに抵抗する準備がなければならぬ。



今、我々の前には、「地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時」がある（黙示録 3:10）。神のみ言葉の上に堅く立っていない者は、必ず欺かれ敗北する。サタンは「あらゆる不義の惑わし」をもって人々を支配しようと、欺瞞を絶えず増大させる。しかしサタンは、人々が自ら進んで彼の誘惑に身を委ねたときだけ、その目的を達成することができる。真理の知識を熱心に求め、服従によって魂を清めるために励み、こうしてその戦いに備えて自分にできるところを行っている者は、

真理の神が確かな保護者であられることを見いだす。「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、……あなたを防ぎ守ろう」と救い主は約束しておられる（同上）。神は、ご自分に信頼する魂をただの一人でもサタンの手中に放置しておくくらいなら、ご自分の民を守るため、直ちに天からすべての天使を遣わしたいと思っておられる。

神のさばきの時に自分は安全であると考えさせるような恐ろしい惑わしが悪人たちに臨むことについて、預言者イザヤは次のように記している。「われわれは死と契約をなし、陰府と協定を結んだ。みなぎりあふれる災の過ぎる時にも、それはわれわれに来ない。われわれはうそを避け所となし、偽りをもって身をかくしたからである」（イザヤ 28:15）。ここで述べられている種類の人々の中にはかたくなな悔い改めない心を持ち、罪人に対する刑罰はあり得ない、人間はどれほど墮落していても、ついに

は天国に伴われて天使のようになると考え、安心している人々が含まれている。特に、死と契約をなし、陰府と協定を結んだ者とは、悩みの時に義人を擁護するために天が与えた真理を捨て、サタンが提供した偽りの避けどころ、すなわち、心霊術の惑わしの主張を歓迎する人々である。

## 現代人の盲目

現代における人々の盲目は、言い表わしようのないほど驚くべきものである。幾千の人々が神の言葉を信じる価値がないものとして拒み、サタンの欺瞞を非常な確信をもって迎えているのである。懐疑主義者や嘲笑家たちは、使徒や預言者の信仰を強く主張する者をひどく攻撃する。そして彼らは、キリストの救いの計画と、真理を拒む者に対する天の刑罰と報復について語る厳粛な宣言を、公然と嘲笑することによっ

て気をまぎらわしている。神の言葉を認め、その律法に従うというようなことは、心が狭く、愚かで、迷信的なものであると称し、これらの人々をいかにも哀れな者のように思っている。彼らは実際、あたかも死と契約をなし、陰府と協定を結んだかのように、すなわち、あたかも自分たちと神の刑罰との間に、通ることも突き抜けることもできない壁を打ち立ててしまったかのように、大いなる確信を示す。彼らの恐怖を引き起こすことができるものは何もない。彼らは、完全に誘惑者に身を委ね、それと緊密に結合し、その精神をすっかり吹き込まれているので、誘惑者のわなを断ち切る力も気力もない。

サタンは世界を惑わす最後の努力をなすために、長い間準備してきた。このため、まずエデンの園においてエバに語った。「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるの

です」(創世記 3:4,5)。サタンはこの言葉に基礎を置き、一步一步と準備して、ついにその傑作である心霊術の発展に至ったのである。彼はまだ自分の陰謀を完成していない。それは残った最後の時に達成されるのである。預言者はこう言っている。「また見ると、……かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった」(黙示録 16:13,14)。み言葉を信じる信仰によって、神の力に守られている者を除いて、全世界は、この欺瞞の隊列の中に巻き込まれる。人々は何も知らず、この致命的な安心感の声に眠らされ、神の怒りが降下するときに初めて目を覚ますのである。

ゆえに、主は仰せになる。「『わたしは公平を、測りなわとし、正義を、下げ振りとする。ひょうは偽りの避け所を滅ぼし、水は隠れ場

を押し倒す。』その時あなたがたが死とたたえた契約は取り消され、陰府と結んだ協定は行われない。みなぎりあふれる災の過ぎるとき、あなたがたはこれによって打ち倒される」(イザヤ 28:17,18)。



もっと詳しく知りたい方のために、  
大争闘小冊子シリーズの完全版

## “キリストとサタンの大争闘”



E.G. ホワイト著

ポケット版 400円

各時代の人類歴史に展開されてきた善と悪、真理と誤謬の大争闘の真相と悪の勢力の陰謀と策略を明らかにし、それに勝利する方法、今起こっている諸事件と諸現象はどんな意味を持っているか、人類にどんなすばらしい未来が待っているか等々が解明されている必読の書！

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com

## 大争闘小冊子シリーズ

- No.1 罪惡の起源
- No.2 サタンと人類の戦い
- No.3 悪魔のわな
- No.4 人は死んだらどうなるか？
- No.5 心霊術の正体
- No.6 現代キリスト教会の危機
- No.7 ローマ法王教の狙い
- No.8 差し迫った戦い
- No.9 ただ一つの防壁—聖書
- No.10 世界への最後の警告
- No.11 大いなる悩みの時
- No.12 神の民の救出
- No.13 平和な千年期は来るか？
- No.14 大争闘の終結



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980) **56-2783** FAX(0980) **56-2881**

[contact@srministry.com](mailto:contact@srministry.com)

[www.srministry.com](http://www.srministry.com)